

徳くほ報

No.0044

発行

令和3年6月

発行元 徳泉寺

仙台市宮城野区

榴岡3-10-3

(022)297-4248

メールアドレス

[tokusenji.send](mailto:tokusenji.sendai@gmail.com)

ai@gmail.com



ホームページ

[tokusenji-](http://tokusenji-sendai.com)

sendai.com



Instagram

[tokusenji.sendai](https://www.instagram.com/tokusenji.sendai)



TOKUSENJI.SENDAI

お久しぶりです

同朋(どうぼん)会

昨年十一月から二月まで休止し、三月に再開したものの四月五月とお休みが続く、お久しぶりの方が多かった同朋会。にこやかに交わされる会話が心地よく本堂に響きました。

親鸞聖人の教えに生き方をお尋ねしていく真宗では、聞法をなにより大切にしています。徳泉寺では、この同朋会をとっても重要な聞法の場と考え、先々代の住職の頃より三十年以上続けています。

不思議なもので、同じお話しても聞く側の心持ちによって、すっと腑に落ちたり、逆にさっぱりわからなかったり。「なんだか全然わからないんです。」という私に「いいのよ、わからなくて。お説法は浴びておけばいいんだから。」と教えてくださったのも同朋会員の方でした。その言葉の通りお話を聞き続けることで、自分が迷いや苦しみに出会ったとき、狭い自分の見とは全く違った視点を指し示していただける気がします。七月は毎年「公開同朋会」として広く声をかけています。どうぞ仏の言葉に会いに来てください。

七月 公開 同朋 会
日 七月十日(第二土曜日)
時 午後一時から三時まで
場所 徳泉寺本堂
持ち物 勤行本・念珠・本『仏教 仏事のハテナ』
内容 勤行・法話



住職法話「檀家と門徒」

檀家(だんか)さん、檀那寺(だんなでら)。各ご家庭とお寺との関係をこのように言うのは江戸時代の「寺請(てらうけ)制度」の名残です。当時はお寺が戸籍台帳のようなものを作り、どこかの寺院に属することが義務付けられたのだそうです。そもそも檀家は「ダーナ」。古代インド語で「布施する人」「めぐみを与える人」という意味だそうです。

一方真宗では「檀家さん」と言わず「門徒さん」と呼びます。これは同じ「門」をくぐって教えを聞く「徒」輩(ともがら)という意味です。そこには上も下もなくただ仏の教えに出会っていく仲間があるだけです。この仲間のことをまた「同朋(どうぼん)」と言います。全く大きさや高さに違いのない水平の関係性、どの人もすべて同じ我ら一緒に命を生き切っていく仲間である、という呼称なのです。

前任職法話「霊の供養と仏の供養」

そもそも日本に古来から伝わる祖霊信仰では、死者の魂は不安定で穢れているが、時と共に安定して清らかな状態になり、やがて祖霊となって子孫を見守る神になると考えられていました。そこに中国から閻魔大王に代表される十王信仰が加わり、慰霊・鎮魂、除災招福のために供養を行う様になりました。それが霊の供養です。

一方「仏(ブツ)」の供養はそうではありません。「供」は仕える、仏意に仕えるという意味で供養とは「諸仏」に仕える、という意味になります。亡き人が私の育てに加わってくたさるとき、その方は「諸仏」となります。『千の風になって』という歌に歌われたように、亡くなった方は私に向けて「わたしの死を見つけてください。あなたはどうか自分らしい生き方をしてください。」と願いをかけてくださっています。残された私がその呼びかけに気づき自分の生き方を仏様の教えに尋ねていくとき、亡き人は諸仏になり、諸仏供養となるのです。